

日本介護福祉学会通信

No. 81



2023年12月発行

発行：日本介護福祉学会 The Japanese Association of Research on Care and Welfare
〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 (株) 国際文献社内

第31回日本介護福祉学会大会参加の御礼

第31回日本介護福祉学会大会
大阪人間科学大学 人間科学部
社会福祉学科 学科長 大野まどか



第31回日本介護福祉学会は、酷暑が続いた夏を終えても、なお残暑の厳しい9月10日(日)に、全国からご参加頂けるように非対面型(オンライン)で、大阪人間科学大学を会場として開催致しました。

今大会は、新型コロナウイルスに対する社会的な混乱が続く中、新たな局面を迎えて間もない開催になりました。これまでのコロナ禍において開催されました大会と大きく異なったのは、参加費を徴収する形で開催をしたことです。コロナ禍において無料で開催された大会から参加費を徴収して開催する本大会は、第31回日本介護福祉学会大会実行委員一同としても大きな挑戦であり、これまで以上に大会の質が問われることを覚悟し、大会の全体プログラム構成、運営、広報活動など綿密な検討を行い円滑な開催に向けて尽力してまいりました。

今大会のテーマは、「持続可能な社会にむけた介護福祉の挑戦ーテクノロジーの活用」と致しました。コロナ禍においてテクノロジーが加速し、介護の在り方に少なからず影響を与えている現実を踏まえ、

「介護福祉」と「テクノロジー」を掛け合わせ、結びつけることによって誰もがその人らしく、自立した生活を営むこと、かつ持続可能な社会を実現することに向けて介護福祉が何をすべきかを自らに問う機会としました。

大会プログラムは、現在のテクノロジーの到達点、介護福祉実践におけるICTの活用の実際、ICTに関する人材の育成を軸に、午前の部では、基調講演として東北大学大学院 工学研究科ロボティクス専攻、教授、平田泰久氏による「ムーンショットプロジェクトと共創研究による自立支援の革新ーテクノロジー活用とICT人材育成の視点からー」から始まり、日本介護福祉学会近畿地区公開講座企画として作業療法と生活リスクコミュニケーション学会とのコラボ企画として一般公開した「作業療法の視点から考える介護事故軽減への挑戦」を行いました。

午後の部は、ランチョンセミナー「エビデンスに基づく介護実践を目指す取り組みー眠りSCANを活用した施設と大学との協働ー」から始まり、本大会からリニ

ユーアルされた実践・研究領域に基づきエントリーされた60題の自由研究発表が繰り広げられました。その後、「テクノロジーを融合した介護福祉の深化に挑む」と題したシンポジウムを行いました。このシンポジウムでは、介護現場でテクノロジーを活用したケアの創造、介護ロボットの創造、介護現場におけるテクノロジーの活用、介護福祉士の視点から介護分野における生産性の向上の4つの視点から議論を行い、介護福祉におけるテクノロジーの融合と介護福祉の深化に向けた多角的なメッセージを発信致しました。

本大会における参加者数は170名で、学生や非会員の参加も多数あり、概ね実行委員会が想定した参加者数となりました。大会へは、会員以外にも幅広い分野から参加者があり、実行委員会としては、

大過なく盛会のうちに大会を終えることができたと考えています。

これもひとえに会員の皆様、後援諸団体様、薫英学園様、日本介護福祉学会大会をはじめ、学会理事会・事務局の皆様、ご多忙な中、基調講演やシンポジスト等にご登壇頂きました諸先生方、自由研究発表の座長を務めて頂きました諸先生方、演題提出にご協力頂きました方々、本大会にご参加・ご協力いただきました全ての皆様のご支援・ご協力のおかげと深く御礼申し上げます。

最後になりますが、第31回日本介護福祉学会大会の実行委員、協力委員の皆様、大阪介護福祉士会の皆様に厚く御礼申し上げます。

【第31回日本介護福祉学会大会 実行委員会】

大会長	大野 まどか (大阪人間科学大学)
実行委員長	武田 卓也 (大阪人間科学大学)
実行委員	浅野 幸子 (大阪介護福祉士会・会長)
	新井 康友 (佛教大学)
	川井 太加子 (桃山学院大学)
	玉井 美香 (大阪人間科学大学)
	時本 ゆかり (大阪人間科学大学)
	水谷 真弓 (大阪人間科学大学)
事務局長	杉原 久仁子 (桃山学院大学)
大会事務局	大阪人間科学大学 人間科学部 社会福祉学科

「学会設立30周年記念」インタビュー対談報告

介護福祉学会設立 30周年記念企画プロジェクトチーム

武田卓也(大阪人間科学大学) 木村あい(神戸女子大学) 平下政美(北信越地区理事)

内田和宏(早稲田大学) 午頭潤子(白梅学園大学) 富田絢子(神戸女子大学) 島崎将臣(神戸女子大学)

小田栄子(神戸医療未来大学) 吉島紀江(京都華頂大学) 伊藤優子(龍谷大学) 上之園佳子(学会副会長)

本企画は、日本介護福祉学会 学会創立30周年記念事業として、学会の軌跡、介護福祉学のあゆみを歴代会長(現名誉会員)から将来へのメッセージとして伝えること、また介護福祉学研究・教育・実践への発展などを目的に、学会創立30周年記念対談を実施し、学会ホームページに特設サイトを設け動画等配信する企画です。

第1弾として、第4・5期会長、黒澤貞夫先生、第2弾として、第6・7期会長、井上千津子先生をお迎え

し、多様な世代のインタビュアーとともに語っていただきました。

学会通信No80で募集させていただきました「学会設立30周年記念 インタビュー対談ゲストへの質問募集」に対し、多数の質問をお寄せいただきまして誠にありがとうございました。皆様から頂いた質問を含め11月までに収録が終了いたしました。今回は、収録の様子をご紹介します。

第4・5期会長 黒澤貞夫先生

黒澤貞夫先生をお迎えして日本介護福祉学会のミッション、介護福祉学構築へ向けてなどを伺いました。



【撮影会場】

神戸女子大学 ポートアイランドキャンパス

【ファシリテーター】

武田卓也

【インタビュアー】

島崎将臣、吉島紀江、小田栄子

【撮影等】

木村あい、伊藤優子、富田絢子

上之園佳子(敬称略)

《動画撮影、インタビューをおえての感想》

黒澤先生に、障害のある人との出会いから介護福祉学の専門性探求へとつながったこと、人間理解と介護の本質、外国人介護職員との協働と教育、科学的介護等のインタビューに対し将来に向けて介護福

祉学の示唆をいただきました。黒澤先生の介護に対する厚い思いを受け止め、介護福祉学の構築に向け、日々、研鑽に励みたいと思っています。インタビュアー 島崎将臣(神戸女子大学)

第6・7期会長、井上千津子先生

井上千津子先生をお迎えして、介護福祉学会の歴史や今後の役割、井上先生ご自身の原点、介護福祉の本質などについて伺いました。



「インタビュー対談の収録風景」は、学会HPにてご案内中です。是非HPもご覧ください。
<https://jarcw.jp/30th/>

【撮影会場】

早稲田大学所沢キャンパス

【ファシリテーター】

平下政美

【インタビュアー】

内田和宏、富田絢子

午頭潤子

【撮影等】

木村あい、上之園佳子(敬称略)

《動画撮影、インタビューをおえての感想》

井上先生から日本介護福祉学会設立の経緯、学会の使命と介護福祉学、専門資格の確立へのあゆみ、会長を務められた当時の取組み、また、介護技術、実践に基づく介護の本質のお話を伺いました。改めてこの日本介護福祉学会という存在の価値の大きさを知りました。これからの介護福祉教育、そして日本介護福祉学会が担っていく役割についても考える機会となりました。貴重な機会を頂き、ありがとうございます。

インタビュアー 富田絢子(神戸女子大学)



《動画撮影、インタビューをおえての感想》

井上先生の介護の本質についてお話をお伺い、深い信念を感じました。日本介護福祉学会の設立、そして会長としての取り組みに広がり井上先生のリーダーシップの素晴らしさ、逆境を乗り越える姿勢をこのインタビュー対談の中で会員及びこれから介護福祉を担う方々に対し献身的にご指導いただいたと感じます。

また介護福祉教育への熱意、学生へのサポートには感銘を受けました。真摯な姿勢、人々との絆や協力が欠かせないことなど、道を示していただきました。誠にありがとうございました。

インタビュアー 午頭潤子(白梅学園大学)

現在動画等編集作業を行っております。完成後、学会HP及び学会通信でご案内させていただきます。ご協力頂きました皆様へ深く御礼申し上げます。

日本介護福祉学会設立30周年記念企画プロジェクトチーム

連載企画 「私と介護」(5)

人は人にこそ癒される：一期一会

野田 由佳里

日本介護福祉学会理事

(学校法人聖隷学園 聖隷クリストファー大学 教授 兼

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 校長)



幼児教育出身。最初に配属された施設が、愛知県コロニー、重度心身障害者施設に配属され、コロニー政策の中で、介護福祉士国家試験導入を体験。結婚後に配属された高齢者施設で、介護保険制度開始時期の怒涛の介護現場を体験したのち、介護福祉士養成に携わる。

○はじめに

私の介護観は【人は人にこそ癒される】である。連載企画の「私と介護」で考えた時、【一期一会】という言葉が一番しっくりきた。今回は家族介護を軸に執筆することとした。

○祖父母の看取りを通して

私の田舎では自宅での介護や看取りは当然家族の仕事であった。田舎の本家という環境もあり、家族で迎える死や、通夜、葬儀、何度も何年も続く法事の繰り返しの中で、家族が亡き人を偲びながら生きることや、近隣住民や組と言われる互助組織を意識し、多くを学びながら育った。

私自身の記憶している身内の看取りについて書き進めてみる。

母方の祖父は寡黙であったが、私に対して穏やかで静かな愛をくれる人で腕のいい大工で、墨付けや、鉋仕事を黙って見せてくれた後、米寿の祝い直後に老衰で亡くなった。祖母、嫁いだ娘達が交代で

一年近くの介護をしていた。祖父の身体はいつも綺麗だったことが印象的だった。

半年後に亡くなった父方の祖父は、大手の電力会社に勤務する技師であった。戦争体験について質問しても語ろうとせず、家族との関係も一定の距離を取り、頑なであった。糖尿病の悪化で痩せていき、動けなくなり、廃用性症候群の悪循環から短期間で亡くなった。当時の田舎は屈葬の風習があり、死後の処置も家族で行ったが、褥瘡が酷く、細くて小さくなった祖父の最期の姿に、「何か間違っている」と小学生ながら感じた。

母方の祖母は私と血縁関係はない。幼い頃は、血縁関係のある孫にだけ、お菓子を与え、血縁関係のない私達兄弟を排除するような人だったが、60歳過ぎに覚えたゲートボールで全国大会に出るような元気な人だった。酷い難聴になり、周囲の人とコミュニケーションが取れない淋しさを訴えるので、晩年には私が折りに触れ、絵手紙を送ると、近所には「優しい孫娘」と自慢をしていたようだった。大好物の稲荷

寿司の油揚げで窒息して亡くなった。

父方の祖母は自宅で雑貨商を営んでいた。五つ玉の算盤をはじき、新聞広告の裏紙に汚い文字で書く売り上げ帳から大した利益がなかったと思われるが、日用品、煙草、食品、文具などが揃っており、現代版のコンビニのようだった。私は居間で弁当を食べる“郵便さん”、休憩する“富山の薬やさん”一日遅れを届ける“イボの新聞やさん”ウィスキーを妻に内緒にひっかけに来る“榎原のおじさん”に可愛がられた。祖母はダムに沈んだ故郷や、苔むした山間の自宅を思い、「田舎に帰りたい」と嘆きながら都会の病院で亡くなった。

今にして思えば、この4人の最期は私の素地を作ってくれていた。介護は一人ではできないことや、不適切な介護をすることは結果、介護をする側にも影を落とすこと、小さなことが重大な事件に繋がること、必ずしも望む死が平等に与えられる訳ではないことを学び、互助や、コミュニティで暮らす意味を体現してくれた家族達だった。

○対人援助職として

母が障害あったことの影響から、就職は障害分野と決めていた。重度心身障害施設での介護経験は対人援助職で学ぶことや働く覚悟やその意味、同期達や寛容な先輩上司に恵まれ、対人援助職の素養を育んでもらえた時期であった。子育てを終え、知的障害施設に復職し、高齢者施設への異動し、どっぷり介護の世界に入った。祖父母にできた愛情をこめて接する姿勢でご利用者に接し、祖父母にできなかった正しいケアを意識していた。とは言え、最初から介護の仕事が好きだった訳ではないが、いつの間にか日々のやりとりに楽しみを見出し、やりがいも感じていた。自分の感情を「上手く説明できないけど、介護をやった人にしかわからない人の交流が好き」とこの時の複雑さを、学会活動や研究活動を通して、

【職業役割的な関係性】を好んでいなかったと自己分析できた。また認知症を抱えて暮らす人でのやりとりから、人間の神々しさや、“人は人にこそ癒される”という介護観や【人格的な関係性】は介護職の継続就労の要因になり得る示唆を得た。

○在宅介護を経験して

実父は直腸がんで亡くなった。余命宣告を受けてから9年近く生き延びた。亡くなる三日前に清拭をし、オムツ交換をした時に父の小さくなった身体に涙が止まらなかった。感謝も伝えられたし、思い出も多く語ることができた。

義母は心筋梗塞により自宅で倒れ、第一発見者となった私が心臓マッサージをしたが、息を吹き返すことはなかった。実父やご利用者にできたことを、義母にできなかったことへの申し訳なさと、辛さが残った。

義父は脳梗塞後遺症による高次脳機能障害で嚥下障害となったが、在宅介護を決めた。義母への贖罪や、介護のプロとしてのプライドもあり、自宅のリフォームをし、介護サービス利用もセルフプランを作って、怒涛の4年間を乗り切り、清々しく通夜、葬儀を終えた。後悔などないと言いたいところだが、構音障害の義父の言動や、非協力的な態度の配偶者への苛立ちや、大学勤務の多忙さの中で心身共に悲鳴を上げ、決して優しい嫁にはなれなかった。在宅介護の経験は、介護サービスを利用する中で、当事者性を伝えてくれたし、介護現場の実状のフィールドワークの機会を大いに与えてくれていた。また介護職養成の必要性や意義を示してくれた。一番長い時間寄り添った義父が、ダメな嫁に死に際まで、介護とは何かとの問いを投げかけてくれたと今も感謝の気持ちで仏壇に手を合わせることができる。

実母は脊柱管狭窄症の痺れに憂い、「早く迎えに来ないか」と言う日と、「曾孫のために頑張って野菜を作る」楽しみを語る日を繰り返している。数年後の自分

の姿だと思うと、邪見には扱えないなど不謹慎な娘であるが、遠方に嫁いだ私は、母の認知症予防だと思って電話を頻繁にしている。「あなたほど、私は暇ではない」と言われ瞬時に切られる場合もあるが、同居の兄夫婦が旅行する際に泊りがけで実家に戻ると、不自由な身体で、私の“元”好物を用意してくれれている。有難いと思う。

〇おわりに

今回の執筆では家族のことを考えてみる機会となった。介護現場での15年に及び利用者との思い出は、良くも悪くも筆舌を尽くし難い。介護の面白さを教えてくださった方、「また明日ね」と別れた直後に急逝された方、BPSDかと思えば「あなたが大好き」と抱きしめてくれた方…。【一期一会】、多くの利用者との別れの場面で、“あなたにできて良かったことを他の方にさせて頂きます。あなたにできなかったことで悔いが残ったことは、次の方に尽くします”そんな思いで介護をしてきた。だからこそ、出会いを大切に

にしてきた。そして一瞬一瞬を大切に作る姿勢を持つことができた。そして何よりも、リスクマネジメントとして、対人援助職は学び続けることが大切だと肝に銘じるとなった。

今、大学に身を置き、研究をする機会を得ている。現場に起きていることの可視化や、言語化できる研究活動に寄与したいと思う。

この原稿は台湾での高齢者施設のフィールドワークの時差ボケの隙間時間に書いている。現地の介護職との出会いはまた素晴らしいものになると思うと期待感でワクワクしている。時差を確認したら、認知機能が低下気味の実母に「今日はいつ？今日の予定？」とルーティンワークのモーニングコールをする予定である。

自分のことよりも、老母にとっては還暦過ぎの娘の行く末や健康が気がかりらしく、電話を切る時に必ず、「ご飯をしっかり食べなさい。仕事をしっかりしなさい。」と今でも注意喚起をされる。頑張っているつもりだが、母からすると、まだまだらしい。

2024年度 海外の国際学会のご案内



海外の国際学会(2024年度3月～9月開催)のご案内です。

対面型も戻りつつあり、ハイブリッド型等オンライン開催もとり入れた学会が多くなっております。情報が変更される場合もあります。学会にご関心のある方はご自身で直接学会ホームページをリアルタイムで情報を確認するようにしてください。

また、読者の皆さんで介護や福祉分野の関係者の学びになるぜひおすすめの海外の学会情報がございましたら、日本介護福祉学会事務局(担当:古川) jarcw-post@as.bunken.co.jpまで情報提供をお願いします!

国際交流委員会(理事 古川和稔・綾部貴子)

①14th annual ICFSR Conference International conference on frailty and sarcopenia research(ICFSR)2024

会期:3月20～22日

開催国:アルバカーキ(アメリカ)

公式HP:<https://www.frailty-sarcopenia.com>

学会の簡単なお紹介:“虚弱高齢者”や“介護予防”等をキーワードにしています。また、“健康寿命”を考える上でも学びのある学会です。

②CIC24 24th International Conference on Integrated Care

会期:4月22～24日

開催国:北アイルランド ベルファースト(アイルランド)

公式HP:

<https://integratedcarefoundation.org/events/icic24-24th-international-conference-on-integrated-care-belfast>

学会の簡単なお紹介:“統合ケア”に特化した、伝統のある国際学会です。ケアを受ける当事者やその家族については参加費を無料にするなど、“専門家だけの学会”にならないようにしていることも特長の一つです。当事者を中心においた支援の視点について学ぶことができます。

③53rd Annual Conference of the British Society of Gerontology(BCG Annual Conference2024)

会期:7月3～5日

開催国:ニューカッスル大学(イギリス)

公式HP:<https://www.britishgerontology.org>

学会の簡単なお紹介:英国老年学会です。今年の大会テーマは「高齢化による包括的な参加:すべての人のための社会の創造」です。

④ Aging & Social Change: Fourteenth Interdisciplinary Conference

会期:9月19～20日

開催国:University of Galway(アイルランド)

公式HP:<https://agingandsocialchange.com/2024-conference>

学会の簡単なお紹介:高齢社会が抱える課題に対して、ケアワークやソーシャルワークだけでなく、様々な視点で課題解決を検討する学会です。



会費納入のお願い

本会は会員の皆様の会費により、運営しております。近年、会費未納により退会となる事例が問題となっております(会費を3年滞納された場合は、理事会の承認を経て退会処理となります)。

学会運営の健全化を導くうえでも、会員の皆様の会費の納入率の向上が必須です。どうぞ宜しくお願い致します。

正会員:9,000 円

学生会員:3,000 円

《会費振込口座》

◎郵便振替口座

00180-7-417389

加入者名:日本介護福祉学会

(他金融機関からのお振込みの場合)

〇一九(ゼロイチキュウ)店 当座 0417389

◎みずほ銀行 江戸川橋支店(545) 普通預金
口座番号:1213646 口座名義:日本介護福祉学会
(ニホンカイゴフクシガツカイ)

本会の活動資金の大部分は、会員の皆様の会費によって成り立っています。学会の円滑な運営のため、ご理解ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

▼お問い合わせ先▼

〒162-0801

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

日本介護福祉学会 事務センター

TEL:03-6824-9378, FAX:03-5227-8631

E-mail:jarcw-post@bunken.co.jp

編集後記

生命に危険があるほどの暑さが年々増えています。加えてコロナ禍で免疫力が低下したことによって感染症も増えているとのこと。私もつい先日ウイルス性の腸炎になってしまい、苦しい状態でした。お仕事も色々とキャンセルをしてしまい、体調管理も大事な仕事だと改めて痛感しました。

そんな中、新しい職場に移りはや半年。今は重度訪問介護など、障がいや難病の方の現場に入るようになりました。在宅の高齢者介護が長かった分、新しい発見や学びが多く、より福祉職としてのやりがいや社会の課題に気付かされる今日この頃。介護福祉士でありながら、制度の縦割りの中で働いていたのだと気づきます。

2023年もあっという間に年末です。2024年度はトリプル改正を控えています。世界情勢も不安定な中、日本全体が大きな変化がありそうな年ですね。

皆さまもご体調に気をつけて、2023年の残りをごして参りましょう。

第10期広報委員会

理事 野田 由佳里

理事 堀 崇樹

評議員 午頭 潤子

編集後記 評議員 金山峰之